

緊急避妊

講義の内容

➤ 緊急避妊法

- 緊急避妊について
- 緊急避妊薬 レボノルゲストレル単剤
- 銅付加子宮内避妊具 (Cu-IUD)

➤ 性暴力・性犯罪被害

➤ 薬局における服薬指導-チェックリスト

緊急避妊法

(Emergency Contraception: EC) とは

避妊せずに行なわれた性交または

避妊したものの避妊手段が適切かつ十分でなかった性交

(Unprotected Sexual Intercourse: UPSI) の後に

緊急避難的に用いるものである。

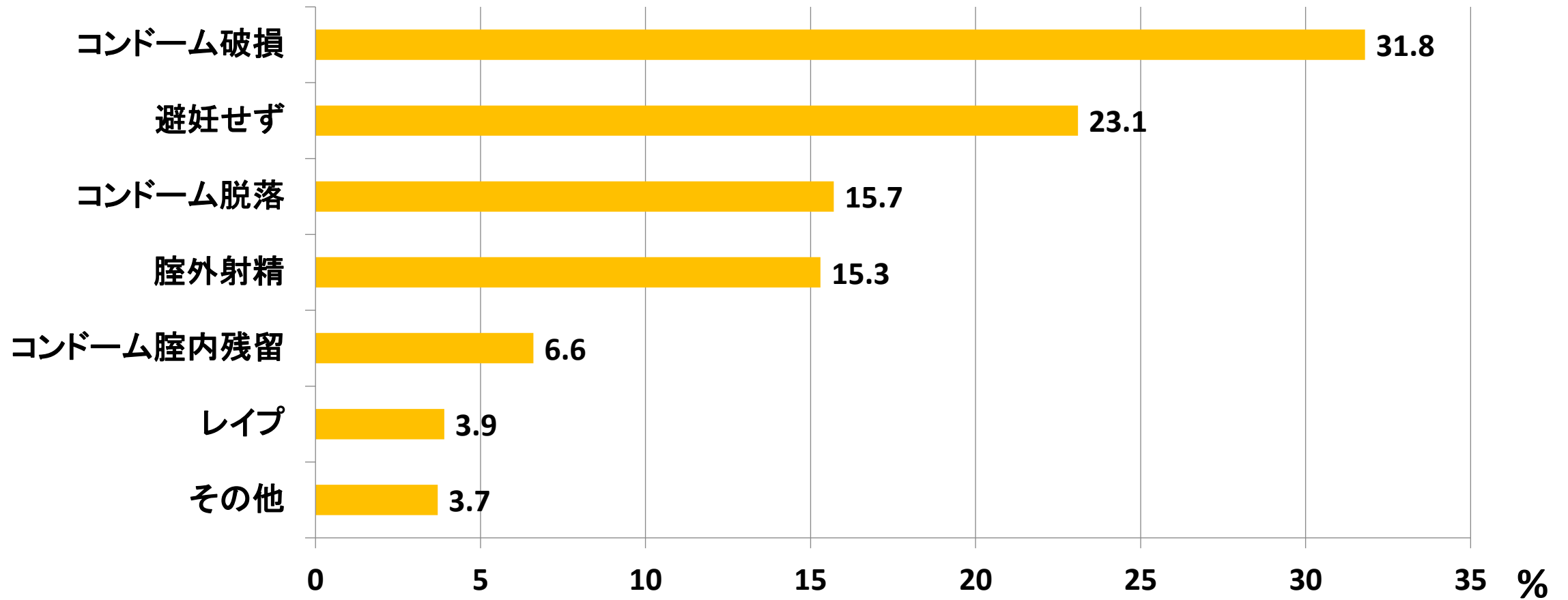
UPSI

(避妊せずに行われた性交または
避妊したものの避妊手段が適切かつ十分でなかった性交)

- 避妊をしない性交
- コンドームの破損、脱落、不適切な使用
- 経口避妊薬の飲み忘れ
- 膣外射精
- レイプや性的暴行
- その他の避妊具の不適切な装着、破損、脱落

など

緊急避妊外来受診理由



(日本家族計画協会クリニック : 2005年4月～2013年3月)

処方する前に医師が行う問診と評価

- 最終月経の時期と持続日数, 月経周期
- 通常の月経周期日数から予測される排卵日
- UPSIがあった日時とその際に使用した避妊法
- UPSIがあった期日以前の性交があった日時とその際の避妊法

緊急避妊薬

緊急避妊薬

レボノルゲストレル錠1.5mg 1錠を

UPSI後72時間以内に確実に内服する。

現在我が国で使える緊急避妊薬は商品名が、
「ノルレボ®錠1.5mg」もしくは「レボノルゲストレル錠1.5mg「F」®」
の2種類

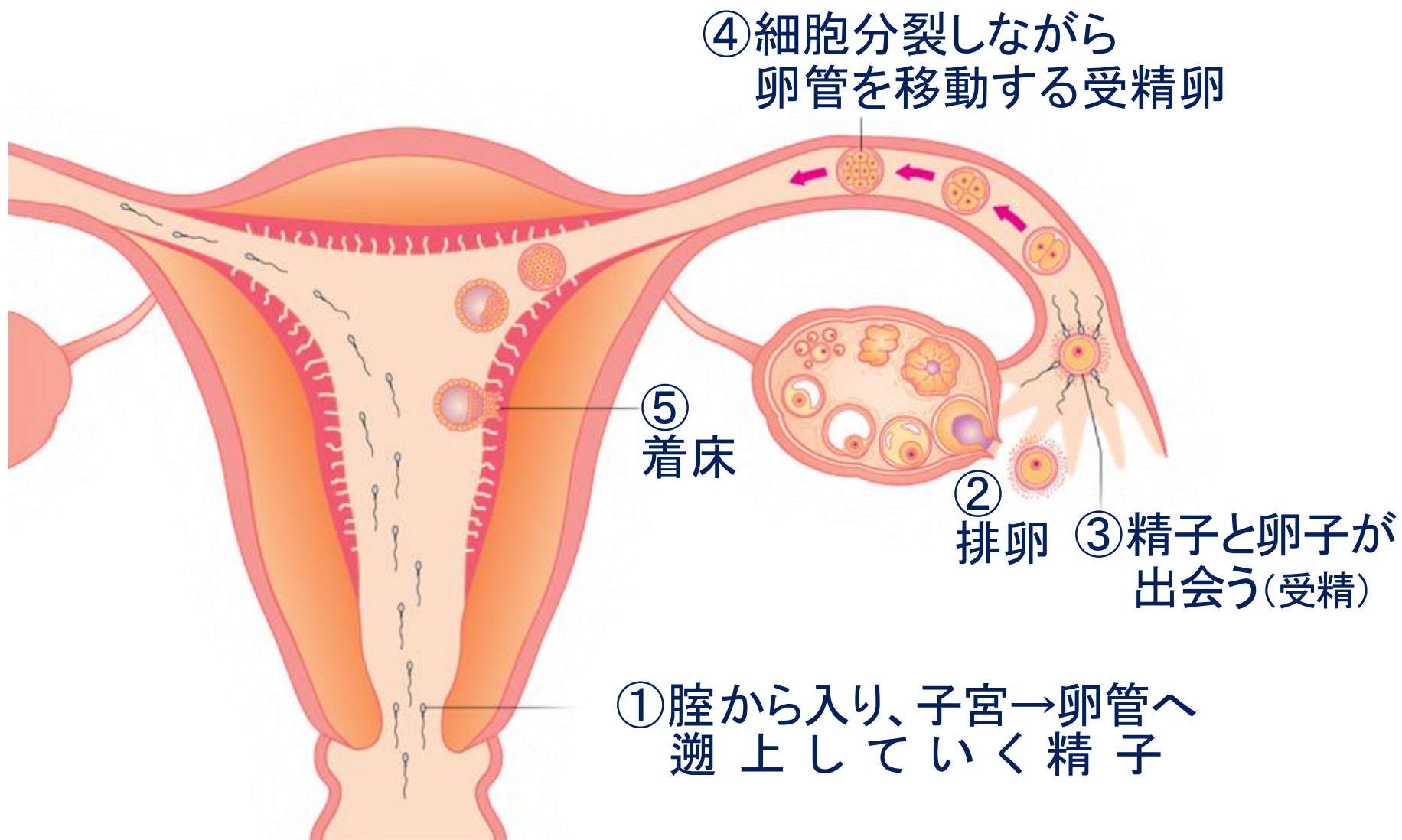
レボノルゲストレルは黄体ホルモンの一種であり、
高容量の黄体ホルモンの単剤である。



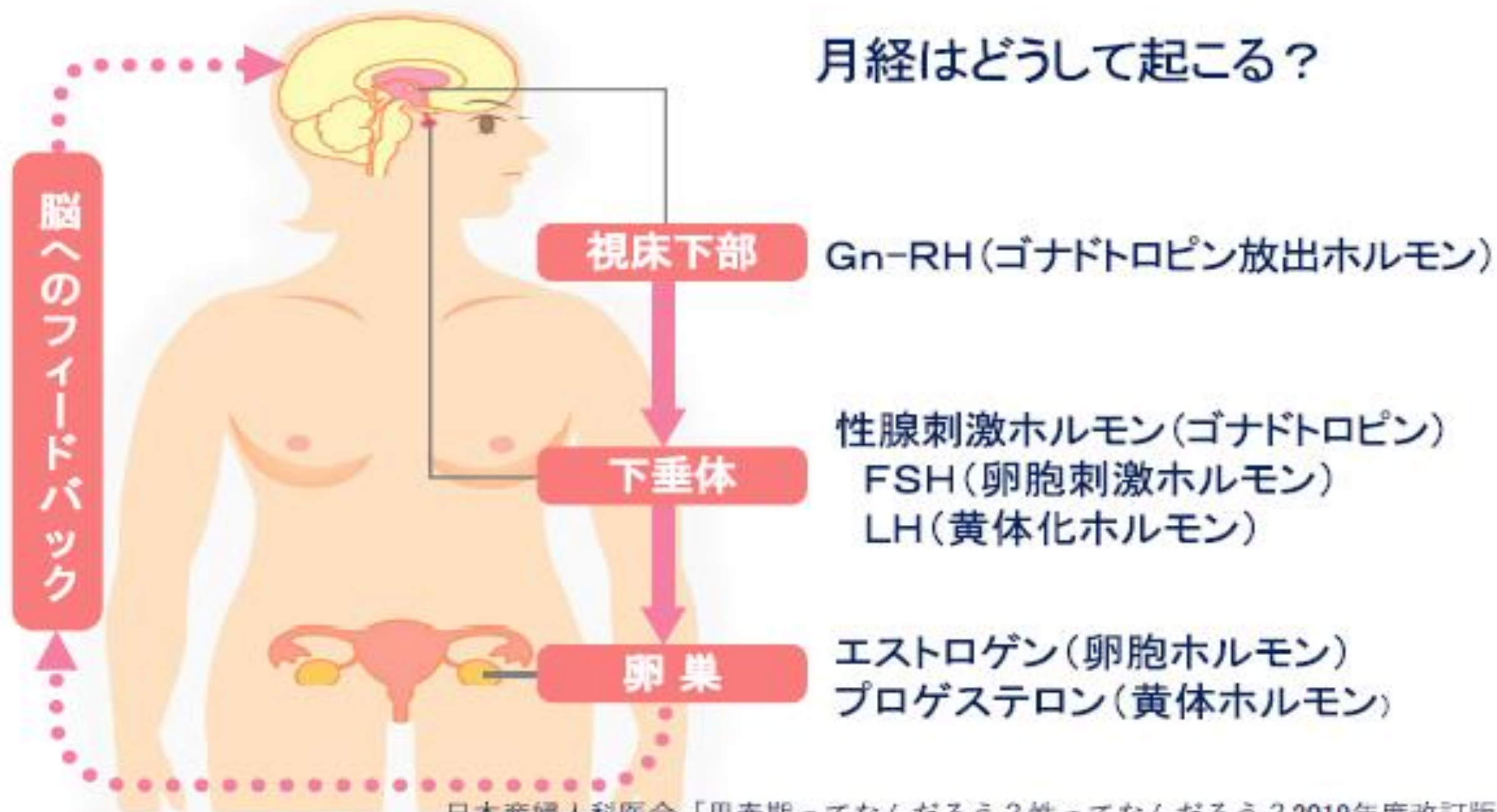
緊急避妊薬 (LNG-ECP) の作用機序

- 基本的にまだ解明されていない
- 排卵を抑制したり遅らせたりする
 - Durand et al. Contraception 2001; 64(4):227-34
 - Hapangama et al. Contraception 2001; 63(3):123-9
 - Marions et al. Obstet Gynecol 2002; 100(1):65-71
 - Marions et al. Contraception 2004; 69:373-374
 - Croxatto et al. Contraception 2004; 70:442-50
- 着床への影響はほとんどない、あるいは全くない
 - Muller et al. Contraception 2003; 67(5):415-9
 - Ortiz M.E, Ortiz R.E et al. Hum Reprod 2004; 19(6):1352-56

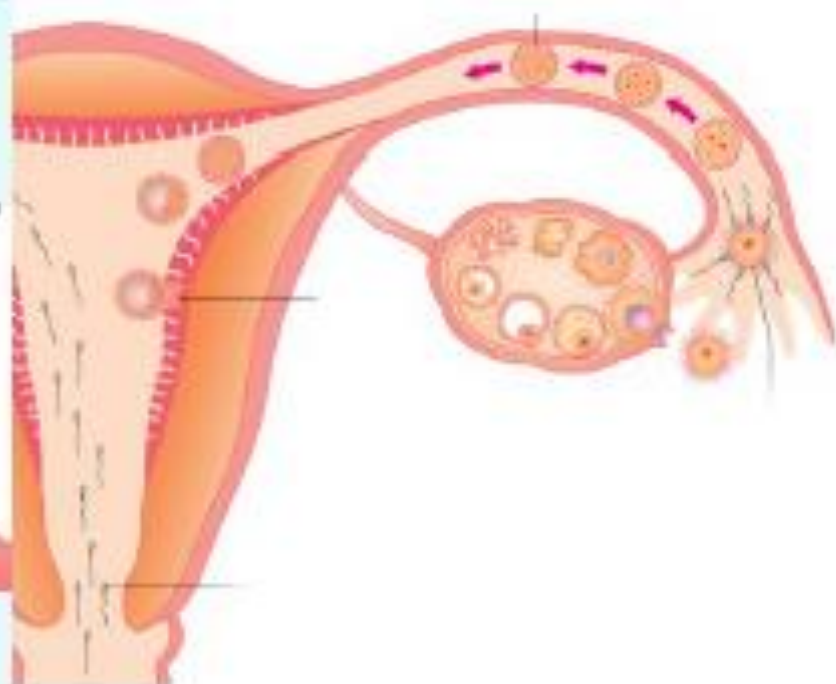
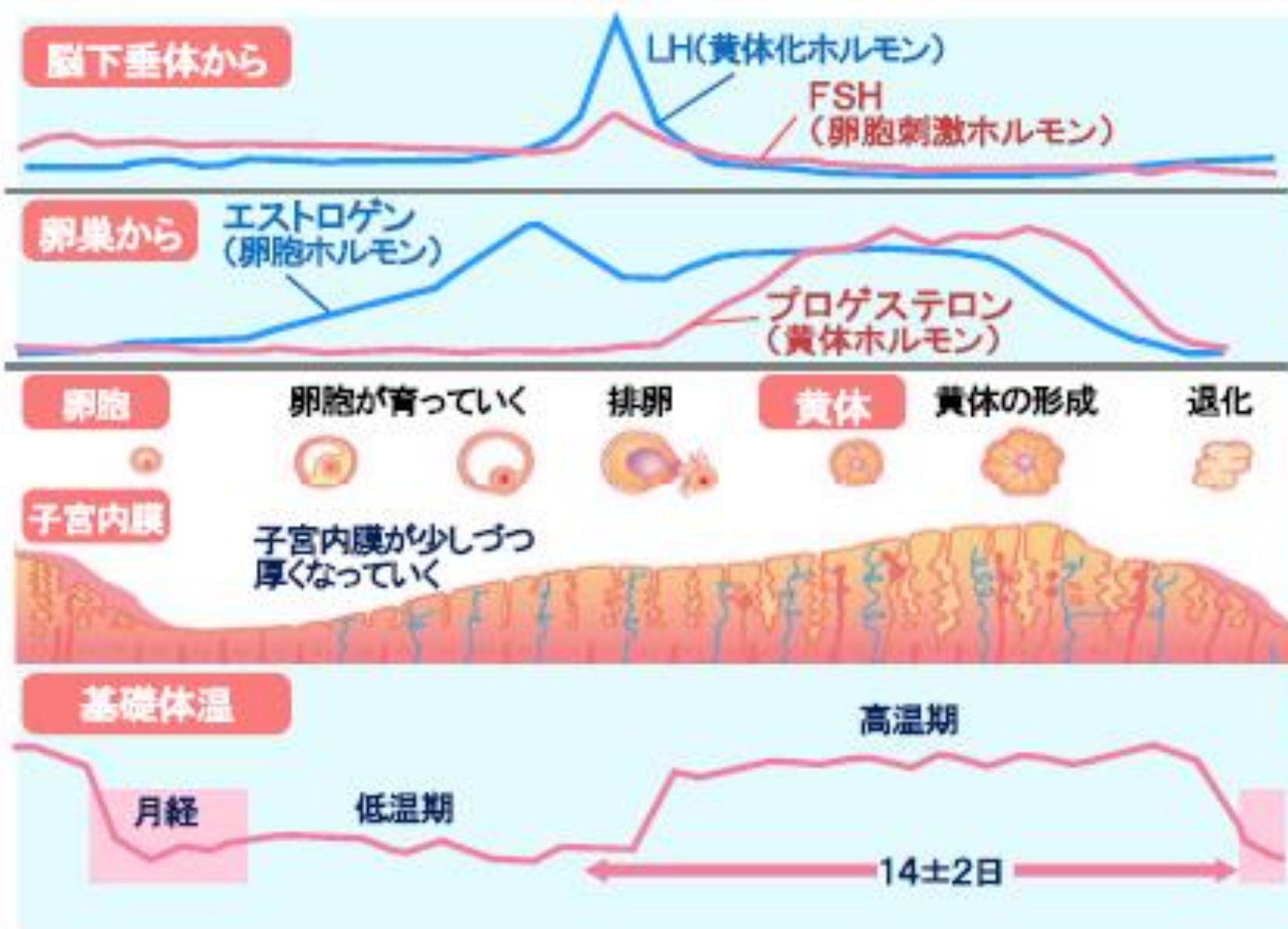
妊娠のしくみ



月経はどうして起こる？



月経のリズム





約14日間 周期によって異なる 排卵 約14日間 周期ごとによりかなり安定している

脳下垂体から

LH(黄体化ホルモン)

FSH
(卵胞刺激ホルモン)

卵巣から

エストロゲン
(卵胞ホルモン)

プロゲステロン
(黄体ホルモン)

卵胞

卵胞が育っていく

排卵

黄体

黄体の形成

退化

子宮内膜

子宮内膜が少しずつ
厚くなっていく

基礎体温

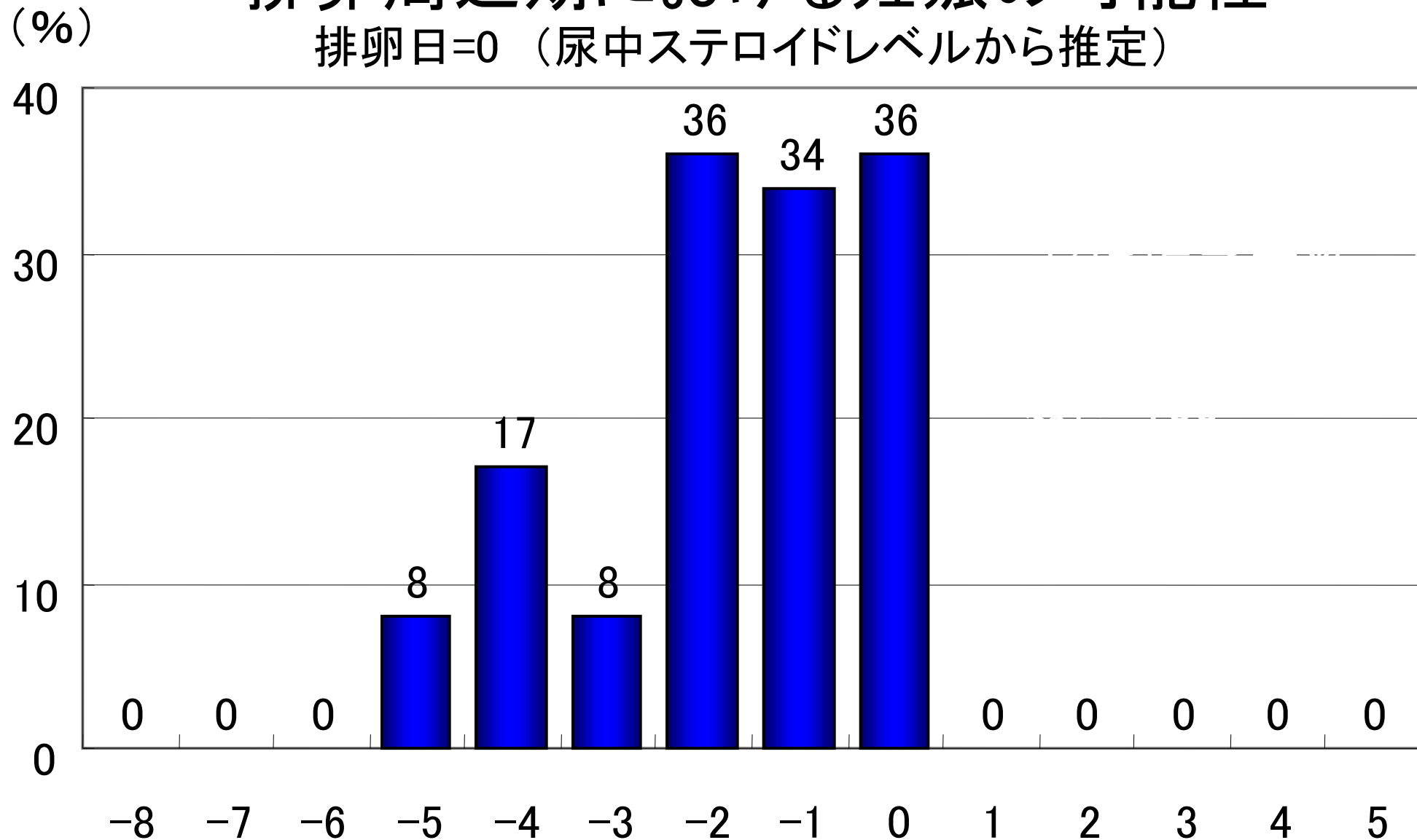
高温期

月経

低温期

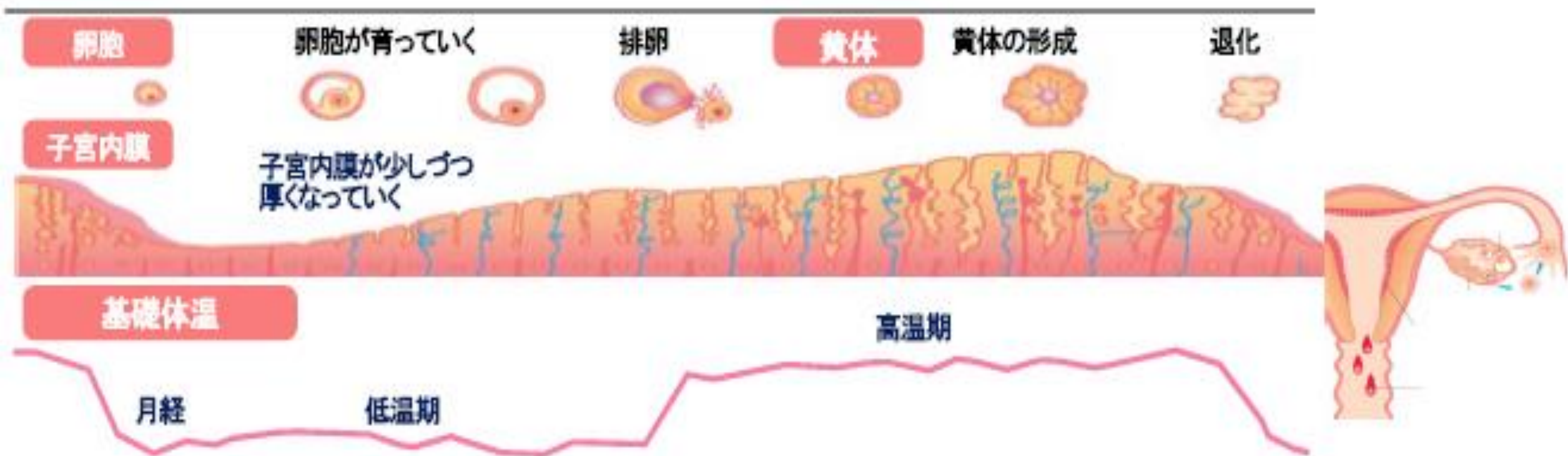
排卵周辺期における妊娠の可能性

排卵日=0（尿中ステロイドレベルから推定）

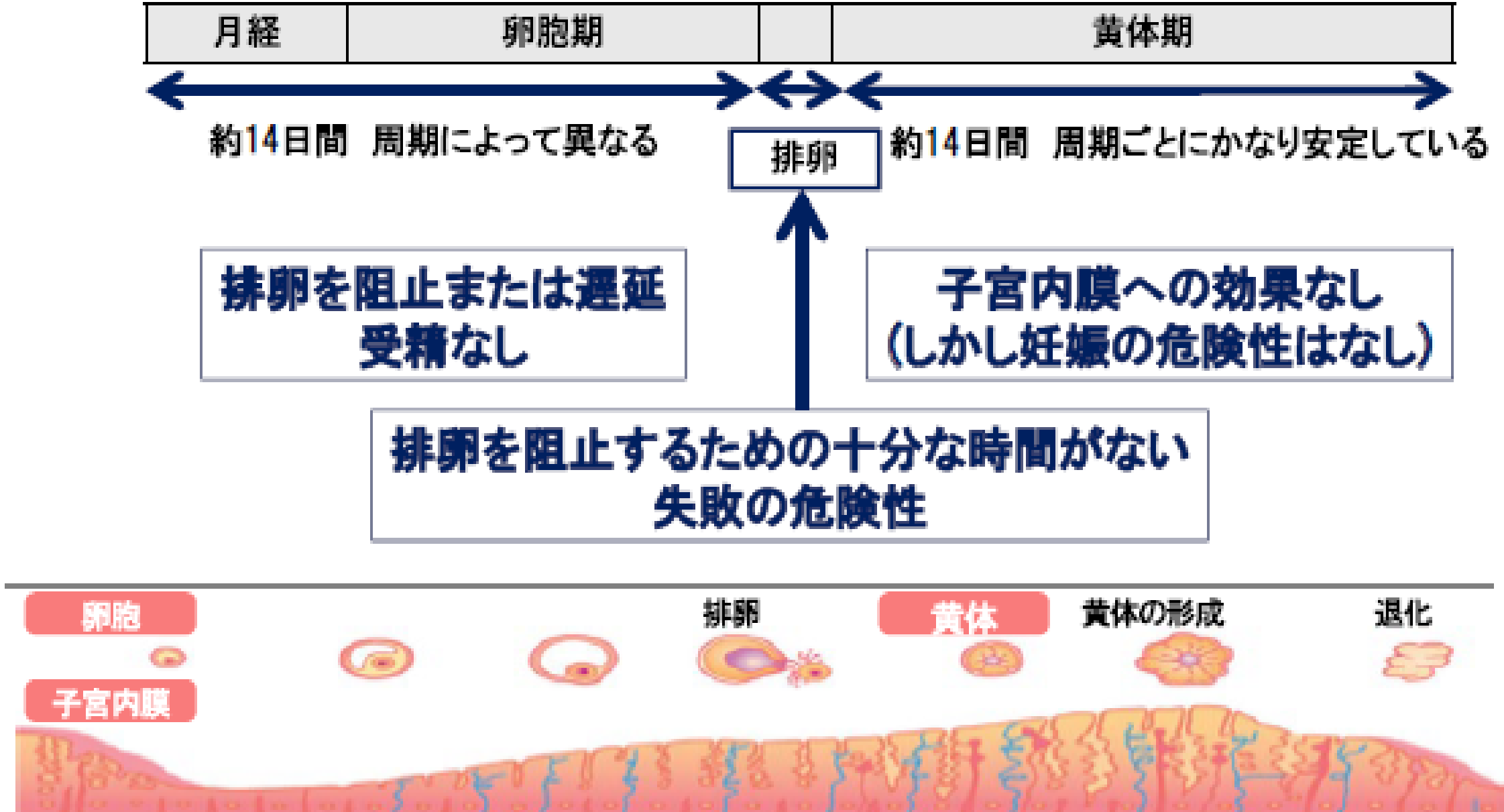


(Wilcox AJ, Weinberg CR et al., New Engl J Med, 333, 1517-21, 1995)

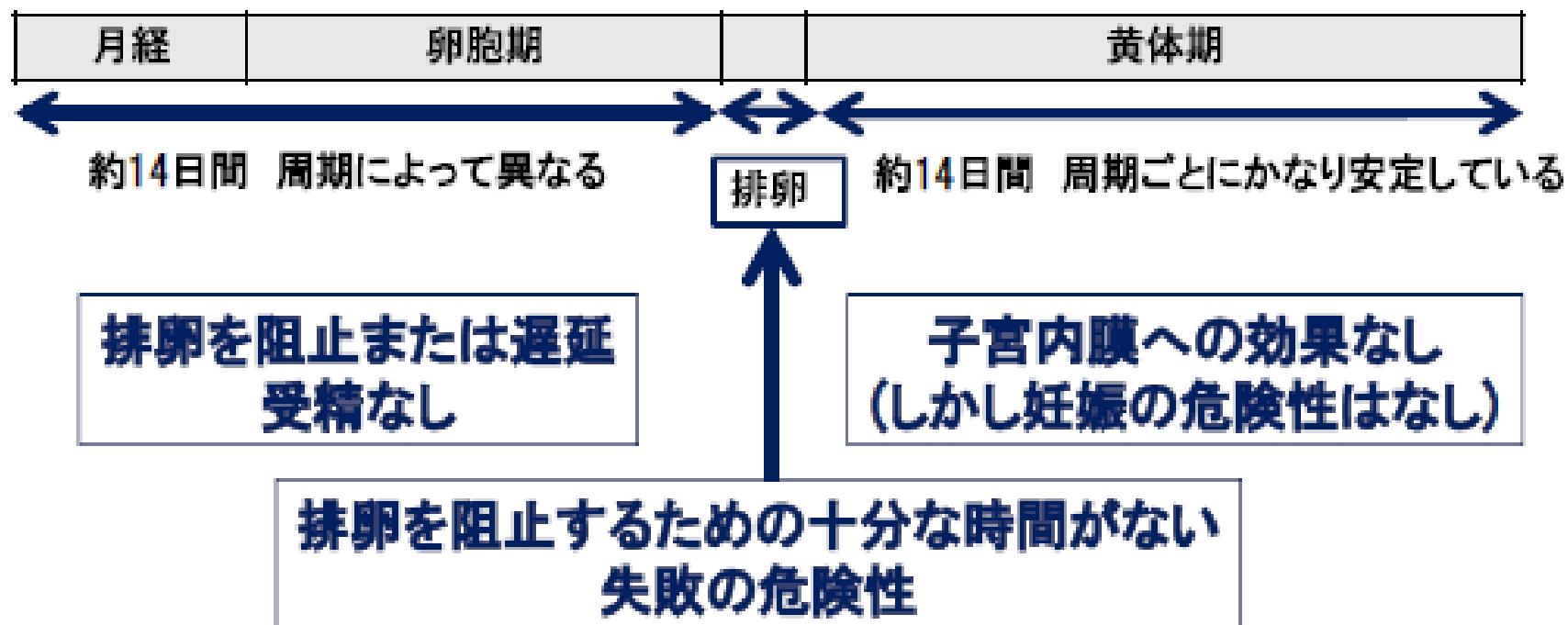
妊娠の可能性が高い時期



緊急避妊薬(LNG-ECP)の作用機序



緊急避妊薬(LNG-ECP)の作用機序



緊急避妊薬(LNG-ECP)は
排卵前に作用することが重要である。
従って可及的速やかで容易なアクセスが必要となる。

服用禁忌と慎重投与

服用禁忌

- 本剤の成分に対して過敏症の既往歴がある女性
- 重篤な肝障害のある患者
- 妊婦

慎重投与

- 肝障害のある患者
- 心疾患腎疾患またはその既往歴のある患者

※乳汁中に移行するので、24時間は授乳を避ける

避妊法使用に関するWHO医学適用基準(第5版、2015)－緊急避妊薬

1:どのような状況下でも使用できる 2:使用する利益が起こり得るリスクに勝る
3:起こり得るリスクが使用する利益に勝る 4:受容できない健康上のリスクを負う

状態	LNG法	解説／証拠
妊娠中	禁忌	ECPは妊娠したら困ると考えた女性に投与されるものである。しかし、間違って妊娠している女性に投与されても有害ではない。
授乳中	1	
異所性妊娠の既往	1	
肥満	1	ECPについては、BMIが25kg/m ² 未満に比べて30kg/m ² 以上の女性で避妊効果が低くなるが、安全性には問題がない。
重篤な心臓血管疾患の既往(虚血性心疾患、脳卒中、血栓塞栓症)	2	
片頭痛	2	
重篤な肝疾患(黄疸を含む)	2	
レイプ	1	

避妊法使用に関するWHO医学適用基準（第5版、2015）－緊急避妊薬

1: どのような状況下でも使用できる	2: 使用する利益が起こり得るリスクに勝る
3: 起こり得るリスクが使用する利益に勝る	4: 受容できない健康上のリスクを負う

状態	LNG法	解説／証拠
薬物相互作用（CYP3A4誘導体：リファンピシン、フェニトイン、フェノバルビタール、カルバマゼピン、エファビレンツ、フォスフェニトイン、ネビラピン、オクスカルバゼピン、プリミドン、リファブチン、セント・ジョーンズ・ワート）	1	強力なCYP3A4誘導体はECPの効果を減じる可能性がある。
ECPの反復服用	1	本来であれば、ECPを繰り返すのではなく、常時使用する他の避妊法へと行動変容を促すカウンセリングが必要とされている。

副作用

国内での使用成績調査(598例)において、副作用は7.96%に認められた

• 悪心	2.25%
• 下腹部痛	0.96%
• 頭痛	1.38%
• 傾眠	1.04%
• 不正性器出血	1.21%
• 乳房障害	2.08%

- ✓ 嘔吐はほとんどみられない
- ✓ 服用後2時間以内に嘔吐した場合は、ただちに1錠追加して服用する
- ✓ 制吐剤の予防的効果は推奨されない
- ✓ 嘔吐が持続する場合は
(銅付加子宮内避妊具Cu-IUD)
の使用を考慮する

注意事項

100%妊娠を回避できるわけではない

市販後調査の結果によると

妊娠症例率 0.7 %

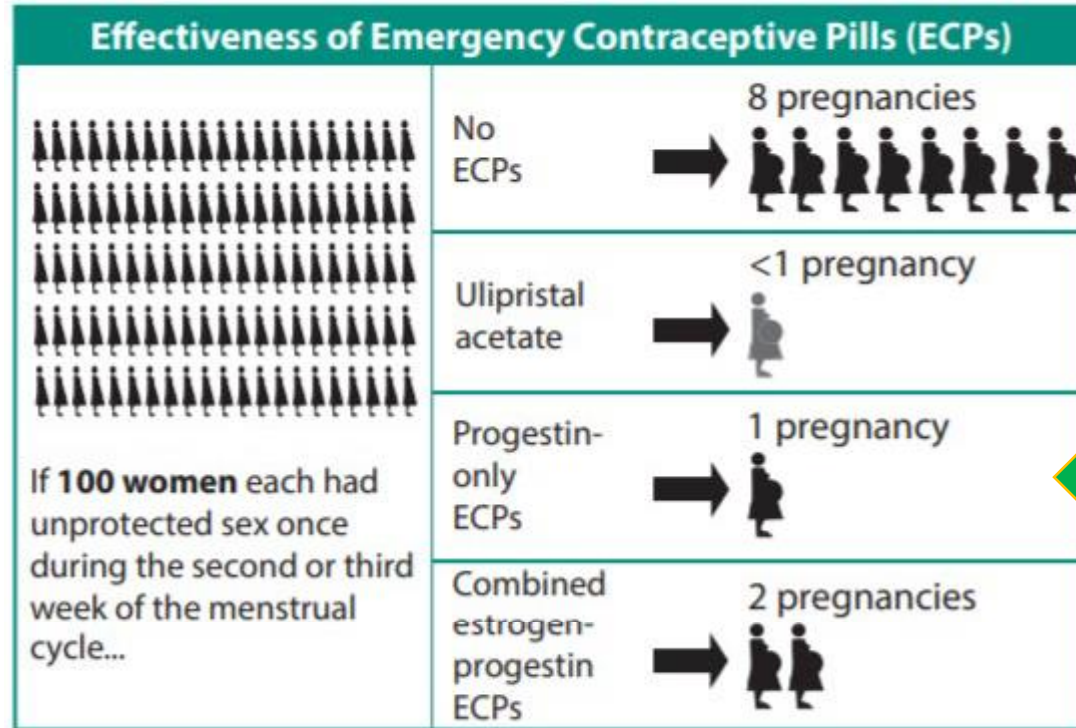
妊娠症例率＝妊娠例数/有効性解析対象症例数×100（%）

妊娠阻止率 90.8 %

妊娠阻止率＝（妊娠予定数－実際の妊娠例数）/妊娠予定数×100（%）

妊娠、異所性妊娠などの可能性はある！

緊急避妊ピルで100%妊娠を回避できるわけではない



月経第2－3週に
100人の女性が
UPISIをもった場合

日本では未承認の緊急避妊薬

- ウリプリスタル酢酸 (Ulipristal acetate)
緊急避妊薬として30mgを内服
UPSI後120時間まで使用できる



緊急避妊薬（ECP）を服用後の服薬指導

95 %が次回予定月経日後7日以内に月経がある.

月経が7日以上遅れたり、通常より軽い場合には
妊娠検査を受ける
産婦人科を受診する
ように勧める。

妊娠、異所性妊娠などの可能性はある！

緊急避妊ピル（ECP）内服後の性交

排卵が遅延している可能性があり、次回月経までに性交が行われると、そのために妊娠する危険が高まる。

ECPの有効性はその後に性行為が行われた場合に低下する。

1月経周期中に2回以上の使用

可能であるが、月経周期が乱れる可能性がある。

すでに妊娠していた場合は反復投与によって流産が誘発されることはない。

投与後12時間以内のUPSIについては新たに内服する必要はないと考えられている。

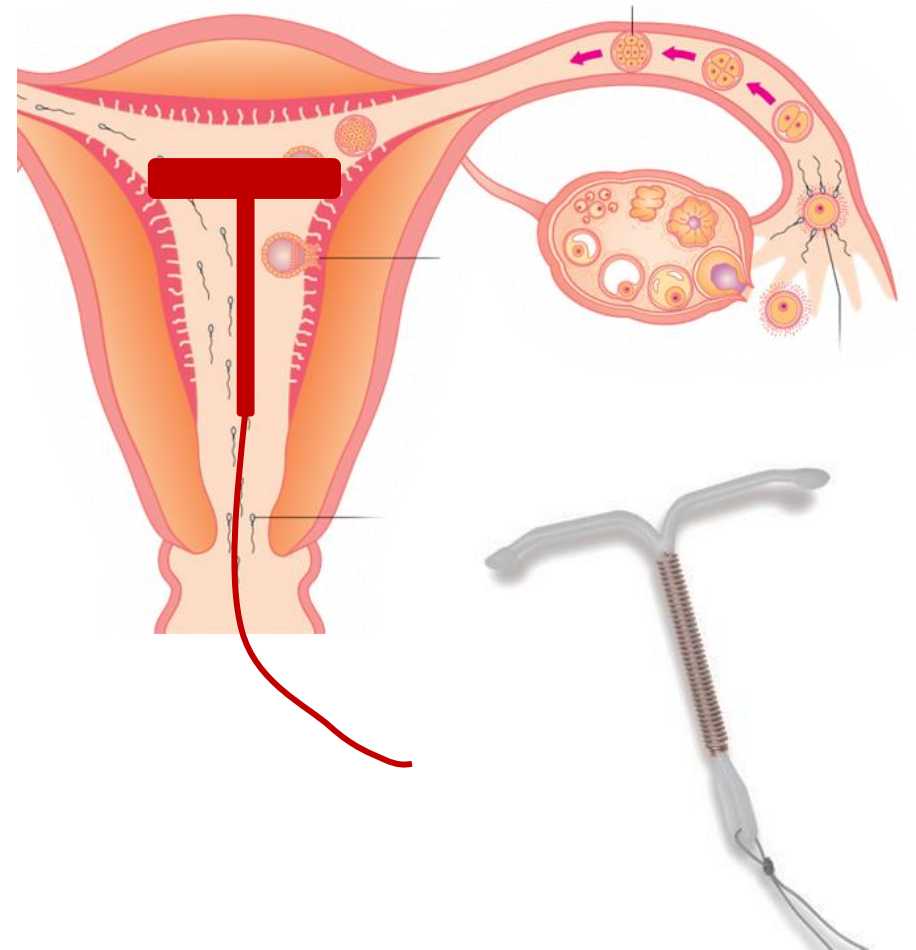
次の月経まで性交を待てない場合

ECPを内服した翌日から経口避妊薬（OC）を21日間、
または妊娠を早めに否定したい場合は14日間
内服させるなどして、
確実な避妊を行えるように指導する。

銅付加子宮内避妊具 (Cu-IUD)

UPSI後120時間以内に挿入する

- 精子の運動能力の抑制→受精阻害
- 子宮内膜の異物反応→着床阻害



注意すべき点

- 避妊効果は100%ではないものの、
避妊効果は高く、妊娠の可能性を99 %以上減じることができる
- 性感染症 (STI) を悪化させることがある
- 妊娠経験のない女性には挿入が困難であったり、疼痛を伴うことがある
- 子宮内感染を惹起する可能性があり、抗菌剤の予防的投与が勧められる
- 次回の月経確認後、抜去する(避妊を継続したいか本人と相談)

中長期にわたる避妊を継続する予定者にはメリットがある

副作用

月経異常 25.7%

過多月経 13%

月経中間期出血 11.5%

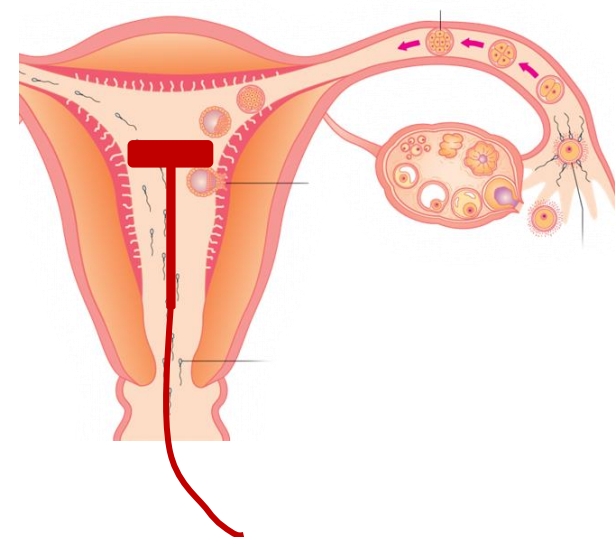
腹痛 11.1%

疼痛 10.6%

白色帯下 10.3%

重大な有害事象としては、

骨盤内炎症性疾患 (PID)、異所性妊娠、穿孔など



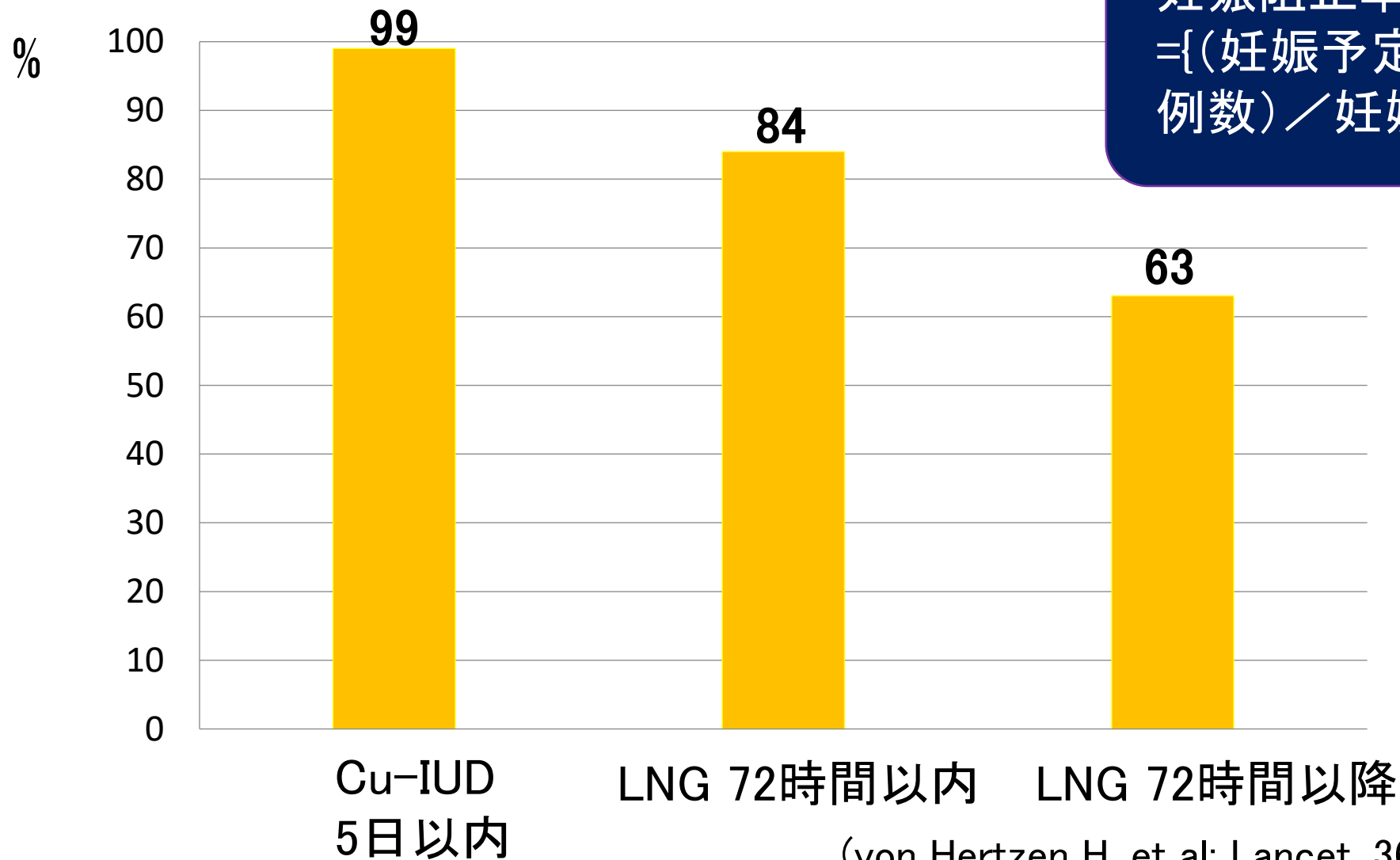
Yuzpe(ヤッペ)法

UPSI後72時間以内にエチニルエストラジオール(EE)50 μ gと
ノルゲストレル(NGR)を含有する中用量ピル(プラノバル)を2錠、
その12時間後に2錠服用

副作用として、悪心、嘔吐が多く

有効性、安全性ともにレボノルゲストレルの優位性が確認されている

各種ECと妊娠阻止率(%)



妊娠阻止率
= $\frac{(\text{妊娠予定数} - \text{実際の妊娠例数})}{\text{妊娠予定数}} \times 100$

(von Hertzen H, et al: Lancet, 360:1803, 2002)

緊急避妊法(EC)

- UPSI後72時間以内
レボノルゲストレル単剤 (LNG-ECP)を内服

レボノルゲストレル錠1.5mg「F」®
ノルレボ®錠1.5mg

- UPSI後120時間以内
銅付加子宮内避妊具(Cu-IUD)を子宮内に挿入

性暴力・性犯罪被害

性犯罪・性暴力

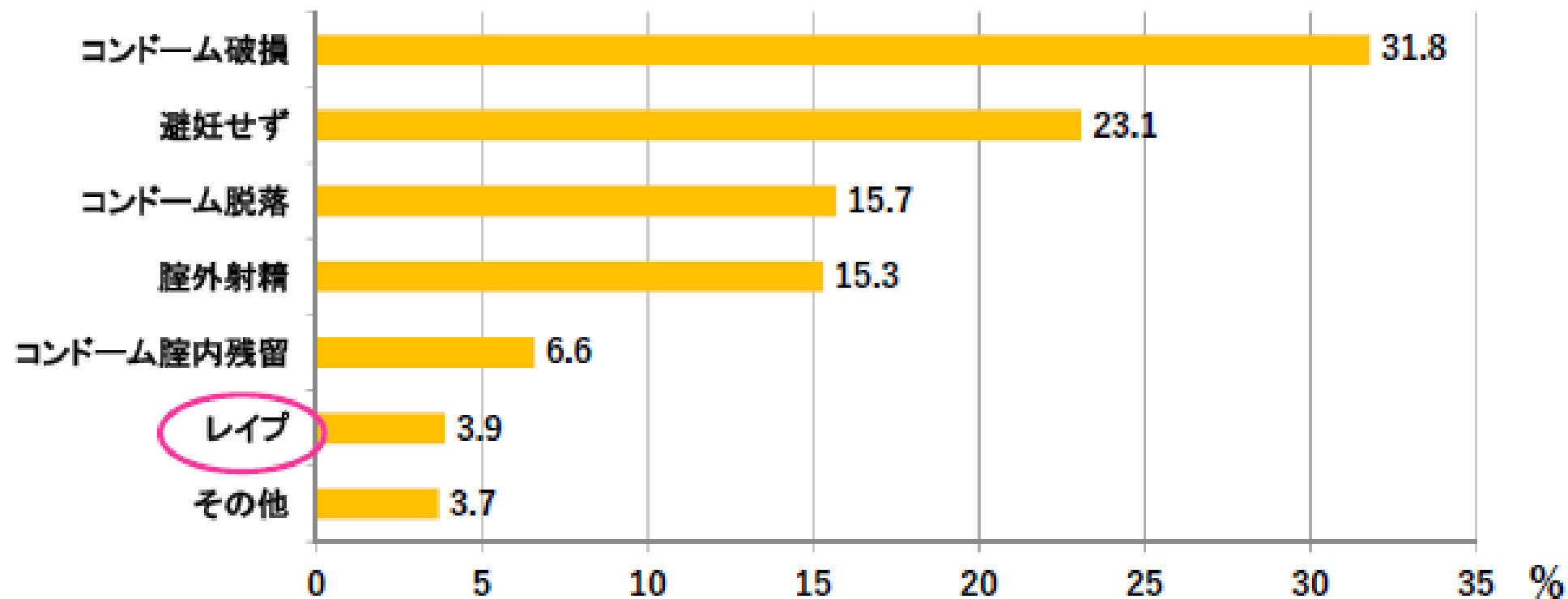
性暴力とは、

「犯罪」に該当しなくても、「相手の意に沿わない性的な言動，行為を行うこと」をいう。

性犯罪に関しては、2017年7月に刑法の性犯罪規定が改正され、「強姦罪」は「強制性交等罪」に変更となり、「13歳以上の者に対し、暴行又は脅迫を用いて性交、肛門性交又は口腔性交（以下「性交等」という）をする」犯罪である。男性も被害者に含まれるようになった。さらに、改正により「非親告罪」となり、告訴がなくても起訴できるようになった。

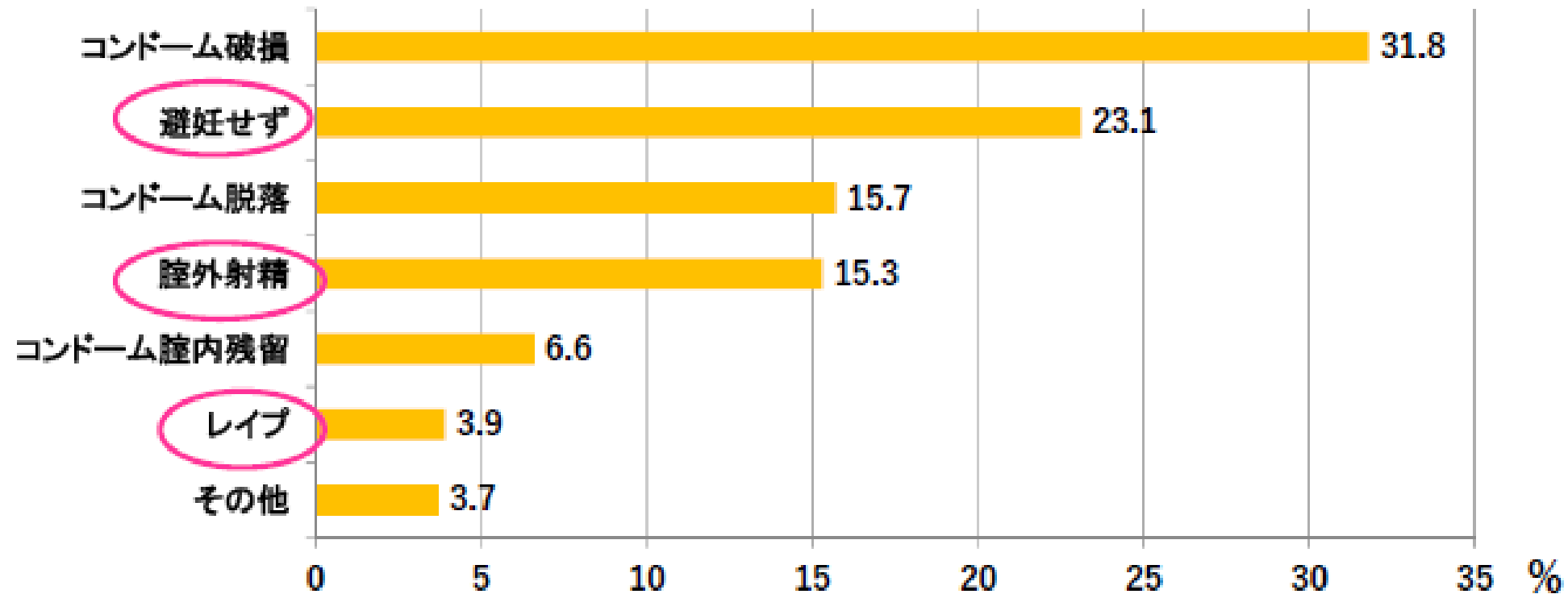
13歳未満であれば、暴行や脅迫がなくても犯罪になる。

緊急避妊外来受診理由



(日本家族計画協会クリニック : 2005年4月～2013年3月)

緊急避妊外来受診理由



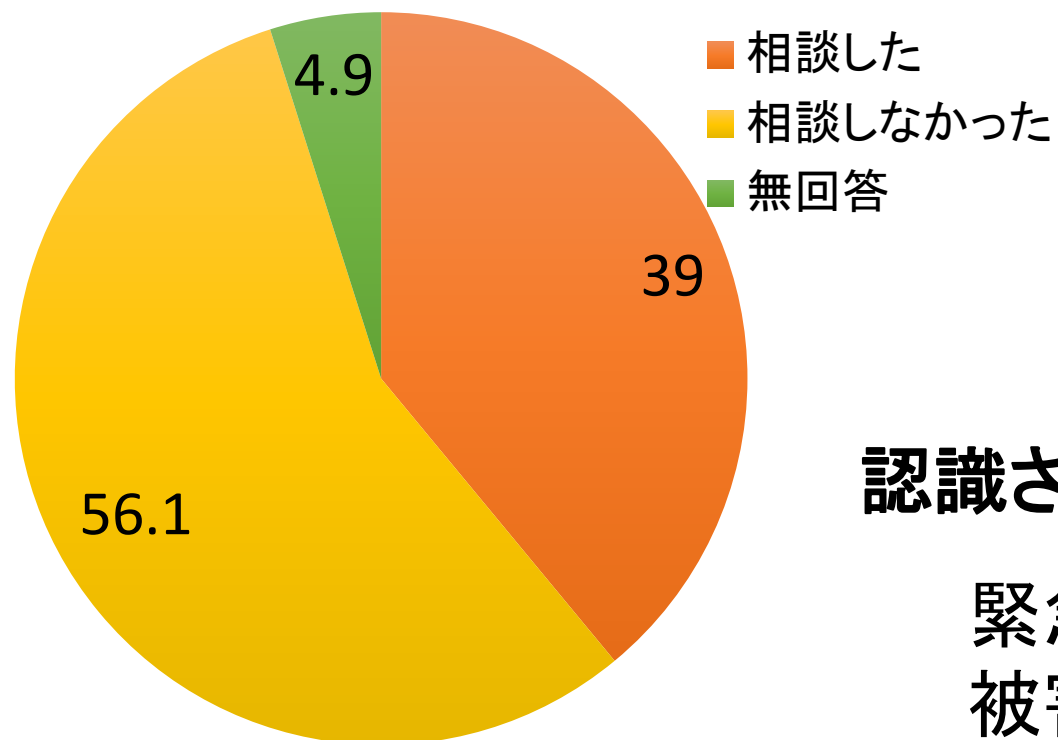
(日本家族計画協会クリニック : 2005年4月～2013年3月)

内閣府男女共同参画局 男女間における暴力に関する調査 平成29年

「異性から無理やり性交されたことがある」 4.9%

女性 7.8% (13人に1人)

男性 1.5%



警察への連絡・相談 3.7% (6/164)

女性 2.8% (4/141)

男性 8.7% (2/23)

ワンストップ支援センター
0.6% 女性のみ 1人

認識されているのは氷山の一角！

緊急避妊薬を求める女性の中には性暴力被害者が隠れている可能性がある

性犯罪被害に対する動向(1)

- 平成18年度から、警察庁において、緊急避妊などに要する経費を公費により負担することにより、犯罪被害者等の精神的・経済的負担の軽減をはかっている。
- 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（ワンストップ支援センター）が、性犯罪・性暴力被害者に対する被害直後からの総合的な支援を目的に設置されており、平成30年10月にはすべての都道府県に設置された。

性犯罪被害に対する動向(2)

- 「内閣府からのワンストップ支援センター交付金」(平成29年)

ワンストップ支援センターおよびその提携病院に対して、内閣府と都道府県からの予算で、警察への通報がなくても診療費の支援を行う事業が発足している。

- 自治体やワンストップ支援センターによっても対応は異なるが、警察を介さない診療や性感染症検査などの診察費、カウンセリングにも公費が負担されることもある。性暴力被害者や被害を疑う者には、ワンストップ支援センターの存在を伝えることも重要である。

緊急避妊薬の服薬指導時のチェックリスト

- 最終性交から72時間以内である
- 黄体ホルモンのアレルギーはない
- 他に服用している薬はないか？ あった場合はその影響に対して説明した
- 現在妊娠していない
- 緊急避妊薬服用に際して、医師から十分に説明を受け、理解している
- 服薬後に性交を開始したら、避妊効果は低下する
- 妊娠を100 % 回避できるわけではない
- 妊娠(異所性妊娠も含む)の可能性に対し、3週間後に妊娠反応検査や産婦人科を受診することが必要である
- 避妊が引き続き必要ならば、確実な避妊法を用いることが推奨される
- 嘔気ができることはあるが、嘔吐は少ない。2時間以内に嘔吐した場合は再度内服する必要があることを説明した
- 望まない状況で暴力的に性行為が行われたのではない。もしも暴力的な状況であれば、地域の性暴力支援センターの連絡先を提示した

おわりに

- 緊急避妊ピル（ECピル）はUPSIの72時間以内に服用させる
- UPSI後72時間以上経過していた時は速やかに産婦人科への受診を勧める。
- 妊娠（異常妊娠も含めて）の可能性について説明し、3週間後の妊娠反応検査や産婦人科受診をすすめる。
- 性暴力被害者が隠れている可能性に留意してよく観察し、ワンストップ支援センターなどの情報を与える。

参考

日本家族計画協会 緊急避妊ピル処方しているクリニック

処方施設検索システムの公開用URL

<https://www.jfpa-clinic.org/s/index.php>



ワンストップ支援センター

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/avjk/pdf/one_stop.pdf